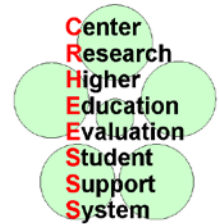


週刊センターニュース

No.239



第239号(2008年12月22日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ デンマークにおける教育プログラム評価への学生参画について ○●○

デンマークでは 2007 年秋に、保育所から高等教育まで全ての評価を EVA(Danmarks Evalueringsinstitut, <http://www.eva.dk>)が担当する仕組みから、一般の大学教育プログラムの評価は ACE Denmark (<http://www.acedenmark.dk>)が担当することとなった。ACE Denmarkは、独立した専門業務を取り扱う機関として位置づけられており、その目的は、デンマークの高等教育機関における教育の質と妥当性を担保し、実証することである。ACE Denmarkによる評価活動は、教育プログラム評価に限定されている。機関別評価は行っていない。ここ数年の高等教育改革によりデンマークでは大学が統合され、その数が 12 から 8 になった。ACE Denmarkでは、アクレディテーション法(2007 年施行)に則って、その 8 つの大学の提供している約 850 の教育プログラムに対するアクレディテーションを実施している。この 850 という数字には、既存のものに加えて、新しく開設されるものも含まれている。アクレディテーションは 6 年周期で実施されるため、おおよそ一年あたり既存 100、新規 40 の教育プログラムがその対象となる。アクレディテーションの結果、教育プログラムは以下の 4 つの判定を受ける。

✓ 認定

6 年間有効とお墨付きとなる。

✓ 期間短縮認定

短縮された期間内に実施される教育改善を評価委員会が見守る。

✓ 条件付認定

質保障の点から要改善項目あり。評価委員会が指導案を提示するとともに、改善計画スケジュール(1 年間)を設定し、その経過を見守る。

✓ 不適

アクレディテーション基準に達していない。プログラムの廃止へ。

上記判定を下す最終決議機関は評価委員会(Akkrediteringsrådet)である。メンバー構成は、議長、大学教員 2 名、文化省から 1 名、教育省から 1 名、EVA から 1 名、国外(スウェーデンのカロリンスカ研究所) 1 名、産業界から 1 名、学生 1 名の計 9 名である。全てのメンバーの権利・責任は対等である。実際に各教育プログラムのアクレディテーションを行うのは教育プログラムごとに設置される委員会であり、そのメンバー構成は、その分野の大学教員、企業関係者、学生それぞれ 1 名ずつである。この委員会の学生メンバーについては、学生団体からの推薦に加えて、Web 上から登録申請を行い、その中から選ばれる。デンマークでは、大学理事会、

教授会等にも学生が正式メンバーとして参加しているが、評価活動にも学生が参加している点は非常に興味深いものであった。

上記の仕組みでのアクレディテーションはまだ始まったばかりであるが、知り合いのコペンハーゲン大学人文学部異文化宗教学の教員は、自分のところの教育プログラムが条件付となりそうだとすることを非常に危惧していた。彼によると教育プログラム廃止はポスト削減のきっかけになる可能性が大であるとのことであった。確かに ACE Denmark の担当者も、評価結果への対応は各部局ではなく、大学として行うべきものであると語っていた。大学の全体戦略と教育プログラムの関係を明確に感じさせる発言であった。日本では、個別教育プログラムのアクレディテーションは行われていないが、将来的には分野別評価導入の可能性もあり、今後もデンマークの教育プログラム評価について調べていきたい。
(文責 評価システム研究部門 堀井祐介)

○●○ 新着図書・資料の紹介 ○●○

大学教育開発・支援センター図書室（総合教育1号館南棟6階 613号室）に、以下の図書が入りました。図書・資料の貸出・閲覧が可能ですので、是非ご活用下さい。

- ・ 国立大学・法人化の行方—自立と格差のはざままで／天野郁夫、東信堂、2008年
2004年に国立大学が法人化した後、どのように変わったのか、どのような新しい課題に直面しているのか、どこに向おうとしているのか。「個性化」という機能役割分化、大学間格差の一層の拡大をもたらしていく政策の流れにあって、国立大学財務・経営センターによる学長・事務局長を対象としたアンケート調査、聞き取り調査等の結果とその分析にもとづき、国立大学セクターの高等教育システムの中での位置づけと新たな国立大学政策、高等教育全体に関わる戦略的な政策構想の必要性を説いている。中央教育審議会大学分科会委員をはじめ種々の委員を歴任し、日本の高等教育研究に大きな影響を与え続けている天野郁夫氏の最新作
- ・ 大学改革 その先を読む—立教大学「大学教育開発・支援センター」連続セミナー講演記録／寺崎昌男、東信堂、2007年
大学は何に適応し、どのような価値にこだわるべきか。大学史研究者として従事する過程で得た深い歴史的洞察、および東京大学・立教大学で様々な教育改革実践に中核として関わってきた経験にもとづき、学士課程教育と大学院教育、カリキュラムと授業、教員と職員等について、その課題と改革の目標や方向を考察している。関連図書として、『大学は歴史の思想で変わる』『大学教育の可能性』『大学教育の創造』『大学の自己変革とオートノミー』（いずれの書物も、東信堂より刊行されています）

○●○ 「センターニュース」休刊のお知らせ ○●○

今年も、本センターニュースを読んでいただき誠にありがとうございました。

12月29日付週刊センターニュースは、休業期間にあたりますので、休刊とさせていただきます。次号は1月5日発行となります。